

第13回テーマ：六甲山とツツジ



ツツジの花を手に観察する

講演内容

- ①六甲山はツツジの生える山
- ②六甲山を彩るツツジの各種
- ③ツツジの受粉
しくみの不思議

実施日：平成16年4月17日（土）
午後1時～3時50分
場 所：六甲山自然保護センター内
レクチャールーム



講師：白岩 卓巳さん
プロフィール

1934年生まれ
神戸大学教育学部卒業
神戸市小学校教員（神戸市
立住吉小・港島小校長）
日本植物分類学会、兵庫県
生物学会会長、神戸親和女
子大学講師

平成16年第1回が好スタート

鶯も鳴く気持ちのいい春の陽気の中、平成16年度第1回目の市民セミナーが開幕しました。冬季休館であった自然保護センターがこの4月から開館し、久しぶりで新鮮に感じます。記念碑台の一部も補修され、参加者の皆さんはセミナー開始の時間まで、広々した記念碑台から素晴らしい景色を楽しまれていました。

これから六甲山を彩る美しいツツジ

アリマウマノズクサや水生シダなどの研究で有名な白岩さんに、六甲山の春を彩るこれからのシーズンのツツジについてご紹介いただきました。いろいろなツツジ科植物のスライド紹介、実物を見ながらしくみを説明していただきました。スライドで見て、花を手にとつての講演で、感心と納得の連続でした。



久しぶりの自然保護センターに集う

講演で休憩を入れて、お茶を飲みながらのざっくばらんな雰囲気、質疑応答へと進みました。

今回からボランティア活動にも着手

講演に先立って午前中に、記念碑台及び周辺の整備・清掃に取り組むボランティア活動を行いました。今回13名に参加していただき、散策用のマップを手に、センター管理人のお話を伺い、ボランティア活動の主旨を確認。散策ルートと記念碑台を下見し、ゴミ拾いをしながら課題を確認しました。（4ページの「六甲山の広場」参照）

市民セミナーの講演後の懇談会では、午前中の下見で気づいた点も含めて、意見を交わしました。

※詳しくは1～2ページをお読みください。

今回は中務勝子さんにレポートをお願いしました。

参加の感想 青木 孝子さん

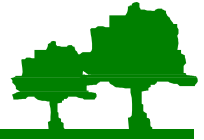
エーッ！アセビがツツジの仲間なの？アセビに始まりホツツジに終わるといふ、1年を通じてツツジの季節。驚きました。「六甲山はツツジの山」というのも頷けます。甲虫「ハナムグリハネカクシ」による受粉の話、吸蜜の話等、色鮮やかな幾種ものツツジのスライドと併せて、心豊かに過ごせた時間でした。これからの季節、幾つものツツジにめぐり合えるでしょう。とても楽しみです。午前の部のボランティア活動も参加者の話し合いを基に進められるのは、とてもいい事だと思いました。



主催：六甲山自然保護センターを活用する会
後援：兵庫県神戸県民局 兵庫県立人と自然の博物館
灘区役所（「地域力を高める」手づくりの活動・事業助成）



第13回テーマ:六甲山とツツジ



第13回市民セミナーの流れ

市民セミナー

1. あいさつ: 13:00~13:15
2. 講演: 13:15~14:40
3. 質疑応答: 14:50~15:00
4. 懇談会: 15:00~15:50

講演

- ①六甲山はツツジの生える山
- ②六甲山を彩るツツジの各種
- ③ツツジの受粉 しくみの不思議



講演のあいさつ(白岩 卓巳さん)

六甲山について幅広い観点で説明したいと思います。ツツジを見ると、六甲山の1年の様子やサイクルがわかります。ツツジを柱として六甲山を歩いて欲しいと思います。



ツツジを柱に六甲山を歩こう

講演内容

六甲山はツツジの生える山

六甲山にはツツジがたくさん生える。六甲山は花崗岩で非栄養地(やせ地)の山なので、水はけが良く、陽も良くあたるためツツジが育ちやすい。

いろいろな種類のツツジ

ツツジ科はたくさんの種類がある。ほぼ咲く順番に紹介していく。

◆アセビ

11月に花芽をつけ、寒い冬を越して4月に花を咲かせる。

◆コバノミツバツツジ

コバ→小さい葉、ミツバ→花の下の葉が3枚。山桜と一緒に山上で咲く。咲く期間が短い。理学博士の牧野富太郎氏は西宮の群落は日本一と記す。



アセビ



コバノミツバツツジ

◆ヤマツツジ

六甲山の名花。最高峰、縦走路までの道で見られる。2~3人ほどで静かに観賞して欲しい。

◆モチツツジ

手で花を触るとモチモチとしている。蜜が多いのでがく片に虫が付く。



ヤマツツジ



モチツツジ

◆ミヤコツツジ

ヤマツツジとモチツツジの雑種。

◆サツキ

街で植えているのでよく見られるが、それらは植栽で、サツキは現在、絶滅危惧種となっている。溪流に沿って生える。水際が本来の自生地。



ミヤコツツジ



サツキ

◆シロヤシオ(ゴヨウツツジ)

六甲山の名花。ゴヨウ→花の下に葉が5枚。紅葉谷から小川谷に降りるところに何本かある。

◆ベニドウダンツツジ

紅葉も美しいが現在では気候の変化の影響か紅葉は見られない。最高峰の近く、極楽茶屋付近、雲ヶ岩で見られる。



シロヤシオ



ベニドウダンツツジ

◆リョウブ

大きなツツジの仲間であるが、ツツジ科に載っていない場合もある問題のある花。穂状に花をつける。幹の皮がはがれる性質がある。戦時中、新芽をゆでてごはんに入れてかさを増やした。

◆ホツツジ

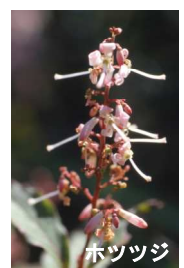
合弁花が多いツツジの中、これは花弁が分かれている。ツツジ科で最後を飾るのがホツツジ。紅葉も見事。250m位、住吉谷の岩場で見られる。



リョウブの花



リョウブの幹



ホツツジ

開花に合わせてふ化するジャコウアゲハ

アリマウマノスズクサを食草とするジャコウアゲハ。モチツツジはジャコウアゲハの蜜源。モチツツジは標高によって開花が遅くなるので、開花に合わせてジャコウアゲハは山の上へ移動し、年に2～3回ふ化する。



ツツジはジャコウアゲハによって受粉する。ジャコウアゲハは毒を持つので敵に襲われないため、ゆっくと飛んでいる。

ハナムグリハネカクシを発見！？

約20年前、油こぶしの岩のところにアセビがいっぱい咲いていた。虫が見あたらないのに虫の音がある。こんな細い花に受粉が出来るのだろうか、考えられない。これを調べても参考書にも載っていなかった。小さい虫の飛ぶ音、ハナムグリハネカクシという甲虫が、花の中に入ったり出たりしているのを発見。羽を広げて飛び、花の中へ入って暴れまわり受粉する。図鑑だけではなく実際に見て確かめないと駄目。

自然を見つめよう

六甲山は花崗岩で植物の育ちやすい山です。以前、標高が932.1mで、クサニイチバン（草が一番）と覚えたほどです。現在の高さは、931.25mとなってしまいました。

1日ごとに移り変わる四季。ものすごいテンポで変わっています。自分を見つめるのと同じくらい自然を見つめましょう。人と自然の共生を考える、見て、触れていくと自然に関心を持つようになります。参考までにツツジを歌った和歌集を配ります。俳句も花のことを知っているともっと歌の奥深さが分かりますよ。

熱心に講演を聴かれる皆さん



富永 邦夫さん



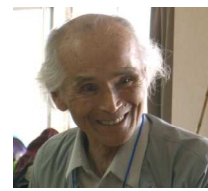
碓田 晴紀子さん



荒井 貴夫さん



寺本 君子さん



澤田 中さん

参加の感想 小坂 忠之さん

シュラインロードを経てセンターに到着。表六甲を眺めながら握り飯を食べる。六甲山についてもっと知りたいと思っていったところ、中川さんより当セミナーの紹介があり参加させていただきました。私の庭にツツジやサツキがあり、白岩先生のレクチャーを楽しく拝聴いたしました。これからのセミナーもバラエティがあり楽しみです。当セミナーに参加して六甲を知り、六甲の自然を少しでも保護できればと思います。



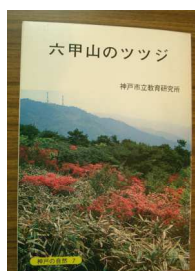
◆参考・配布資料など：

- ・レジュメ配布
- ・牧野富太郎氏 資料
- ・六甲山のツツジ花ごよみ
- ・ツツジを歌った和歌集

～参考図書～

『六甲山のツツジ』

神戸市立教育研究所（絶版）



白岩さんへのお問い合わせは当会事務局にご連絡下さい。

◆参加者：30名（順不同・敬称略）

白岩 卓巳 高井 登 山田 勇 井上 和子
山下 潤治 碓田晴紀子 寺本 君子 青木 孝子
澤田 中 前田 和子 中務 勝子 山西 一平
兼貞 力 山本 悟而 八木 浄 中村 年枝
三村栄三郎 小坂 忠之 荒井 貴夫 西崎俊一郎
西尾 智明 富永 邦夫 堂馬 英二 米村 邦稔
松井 光利 小野 律子 中川貴美子 遠井 方子
藤井宏一郎 菖蒲 美枝

参加者の声 アンケートより

◆セミナーの感想

- ・漠然と六甲山を歩くのではなく、ツツジ等テーマを絞って楽しむのも大きな喜びがある。
- ・ユニークに展開する面白い話であった。
- ・いつも見慣れているツツジにも不思議な秘密があるなんてビックリ。
- ・ハナムグリハネカクシはしばらく流行語になりそう。

◆懇親会はいかがでしたか？

- ・親しみが持てて良かった。
- ・六甲山をどのようにしていくべきか有意義な意見が聞けた。
- ・六甲山の自然を再確認した。
- ・六甲山を本当に愛している方が多いのに驚く。
- ・世界的に観光客が来る六甲山だが、昔と比較すると今は輝きが少なくなったように思っていたが、皆感じていることは同じだった。